



2021年  
2月22日  
発行

日本山岳会

# 「高尾の森」通信

—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：170名  
(2021.1月末現在)

多くの方々に支えられ、  
今年は節目となる創立20周年を迎えることができました。  
この看板は2001年に作られたものです。  
最初は手書きだったようで、P8の山本さんの投稿で初めて知ることができました。

創立  
20周年

## 日本山岳会小下沢風景林森づくり事業

日本山岳会は、小下沢地区国有林において、雪害等によるギャップ個所への広葉樹の植栽、除間伐、道づくりなどの森林整備を、緑のボランティアの協力により実施しています。  
本事業は、(社)国土緑化推進機構からの緑の募金交付金の助成を受けています。

平成13年1月19日

(実施主体)  
(社)日本山岳会・自然保護委員会  
「高尾の森づくりの会」



ツルウメモドキ

ニシキギ科 落葉つる性木本。  
北海道～九州の山野の林縁に生え、  
長さ数メートルになる。

横川信由

ツル  
ウメモドキ  


<http://JACtakao.net>





光に向かって……



# 2021年を 迎えて

代表 吉川正幸

2021年の正月は、厳しい寒波と大雪に見舞われるなか、新型コロナウイルスの猛威が収まらず、大変な年明けとなりました。昨年は、4月に緊急事態宣言が発出されてから、高尾の森づくりの会の活動も長いあいだ休止することになりました。

普段は豊富にあるものも、それを禁じられると、一層のこと手に入れたくなるものです。私にとって、それは旅行や山歩きであることを、外出自粛要請によって、あらためて気づきました。その渴望をいやすために、私は昨年、何回か一人で北高尾の山に入りました。一回目の非常事態宣言が終わった6月には、感染症の影に怯えながらも、新緑にあふれる初夏の山を歩きました。11月には、落葉を踏みしめて、そこかしこに残る紅葉を見て歩きました。小下沢の最源流には広葉樹の自然林が残っていることを発見しました。その経験は、静かな山の良さもあり、広葉樹の新しい葉の緑の輝き、黄色や赤く色づき、落ちてゆく葉の美しさを、気づかせてくれました。

高尾の森づくりの会は、2001年の正月に設立されたので、今年は20周年目に当たります。設立時からの当会は、広葉樹を植えて針葉樹との美しい混交林を作ろう

という目標をもっていました。会の創設者たちの静かな決意と情熱によって、長いあいだ広葉樹を植えてきた結果、現在の植栽地には、美しい緑の林を形づくっています。そして、今も高尾の山は動かず、森の木々は育っています。

新年早々に、コロナウィルス感染が再拡大して、2回目の緊急事態宣言が発出されました。私たちの会は、地域に根差した社会的存在であり、感染防止に協力するため、再び活動を自粛せざるを得ません。緑あふれる小下沢に皆で入りたいのは、山々ですが、しばらくは社会と会員の皆様の健康を守ることを優先することになります。

山と森は逃げてはゆきません。また、コロナ禍は、いつかは必ず終息します。暗いなかにもワクチンの開発は進み、希望の光が見えてきました。コロナ禍の中では、この会を作った先輩方の理念と情熱を思いおこし、体力を温存することにしましょう。しばし山に入ることを休めば、会の活動が正常に復した際には、緑の山の美しさや、山の作業で手足が痛むほど疲れた後のビールの美味さを、倍にして楽しめるでしょう。

皆様が、コロナ禍を乗り越え、健やかにこの年を過ごすことをお祈りします。光の見える秋には、当会の創立20周年を、明るい笑顔で祝うことにしましょう。



高尾の森づくりの会 会員の皆さま、  
高尾山での森づくり活動、自然保護や自然教育活動など  
皆さまの継続したご努力・ご苦勞は以前からうかがっておりました。  
また気仙沼や三宅島での活動の広がりにも感銘を受けていました。  
今回吉川代表さんからお声がけをいただき、  
皆さまに「山の日」の紹介をさせていただきます。

# 「山の日」の意義を伝え 次世代につなげる

全国山の日協議会 理事長  
梶 正彦



祝日「山の日」は2014年5月の閣議で制定が決議され、2016年より施行された新しい祝日です。制定に向けての運動では、日本山岳会さまには中心的役割を果たしていただきました。制定後日も浅く、また十分な啓発活動が出来ておらず、多くの人達が「山の日」が「登山の日」と思われています。

祝日「山の日」の本来の意義は、国土の7割近くを山地がしめる日本の美しく豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐ運動を推進し、国民の利益向上に寄与することです。すなわち山や自然とのかかわりを考える日です。山・自然を舞台に活動範囲は、教育、保全、アクティビティ、地域活性化と多岐にわたります。

山の日協議会では現状のリソース踏まえ、これから4年間の活動は次の分野に注力することになります。①「山の日」関連行事を紹介し、ネットワーク化する。これらをベースに活動を全都道府県に拡大する。また活動分野を拡大してゆく。②全国での自然関係の活動の発掘・発信し、活動団体・活動者のネットワーク化を図る。山の日活動に参画していただける人がもう少し増えた段階で、③若い世代の活動参加への仕組み・体制作り、④自然活動を使った教育、植林・育林活動、自然保護活動、里山整備、里海運動等々の分野で活動する団体・サークルとの連携、をしていきます。

また中長期のビジョンおよび戦略としては、⑤SDGs、ESGを通して、「山の日」への共通認識を醸成する、ことを考えています。

自然を守る、次世代に継承するために活動している人達とネットワークを形成し、次世代の担い手を育ててゆく活動必要が、今こそ求められています。

高尾の森づくり会さまの活動を、山の日協議会のHPを通して全国に紹介してください。

そしてこれまで20年に及ぶご経験をベースに、全国的ネットワークを構築し活動する中心メンバーになっていただくことも期待されることです。これらの活動の一端を担っていただくことで、高尾の森づくり会活動の一層の活性化につながれば良いな、と思います。

これから高尾森づくりの会さまとの連携を進展させ、「次世代につなげる活動」をともに実践していくことを期待しています。



# 11月活動日記

なかなか新型コロナウイルス感染終息の見通しが立ちませんが、班別に分散しての行動、流れ解散、会食の禁止など3密対策を取りながらの実施とした。

作業は201林班ほ小班には機械班が支援に入り作業もはかどりました。また台風19号で崩落したザリクボ右岸に新たな作業道づくりにも継続して取り組んだ。

またコロナ禍で人集めがきびしい中、東京都浅川林務出張所が台風で崩落した木下沢林道の補修に着手され嬉しい限りです。



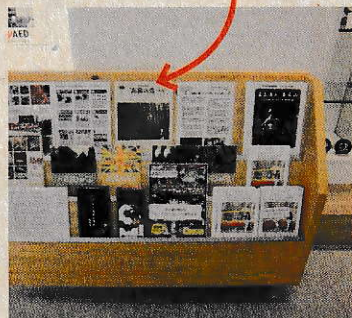
B班 (11月)



東京都環境局よりヒアリング (11/6)

## もくじ

2021年を迎えて.....	02
「山の日」の紹介.....	03
11月活動日記.....	04
12月活動日記.....	05
私と高尾の森づくりの会.....	06
チェーンソー研修に関して.....	09
私のステイホーム.....	10
新入会員紹介.....	11
幹事会報告.....	12
事務局からのお知らせ.....	12



599ミュージアムに  
会報誌設置



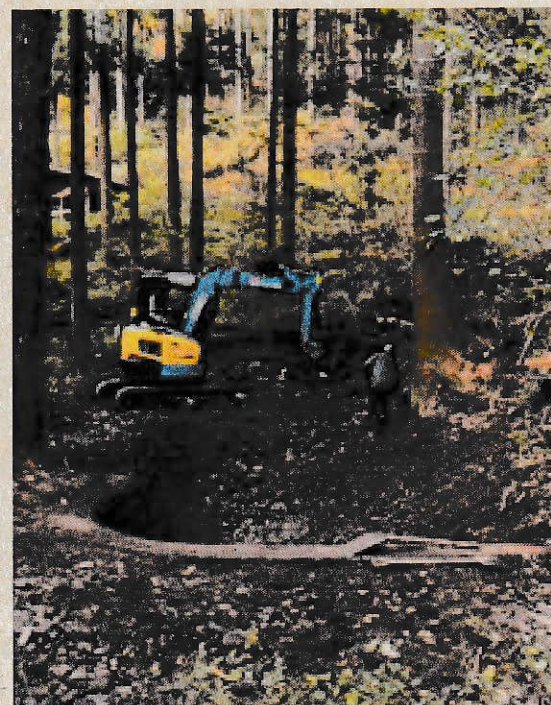
A班出発 (11月)



D班



上柚木公園作業 (社会体験学生と共に)



木下沢林道工事始まる



# 12月活動日記



上柚木公園整備完了

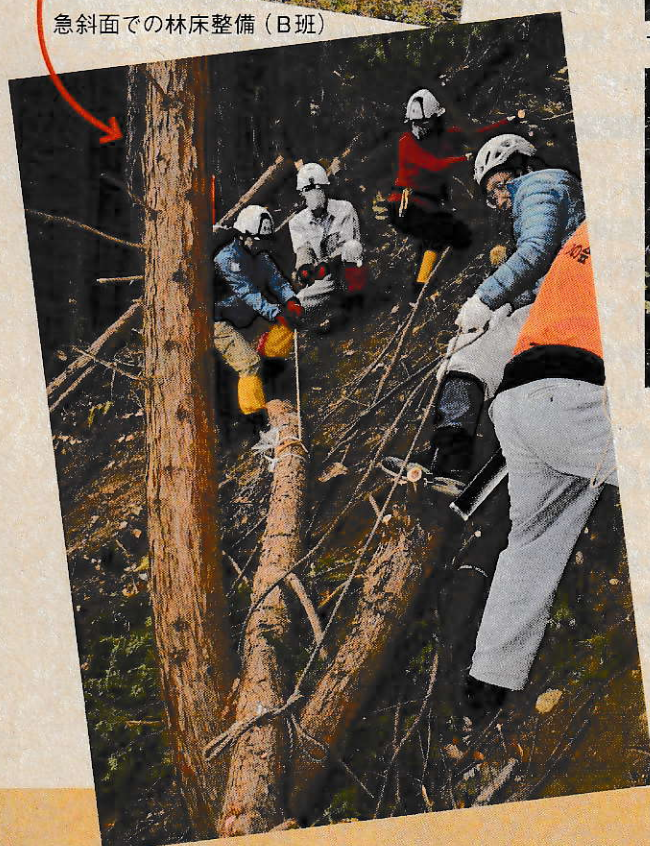


A班と機械班(12月)

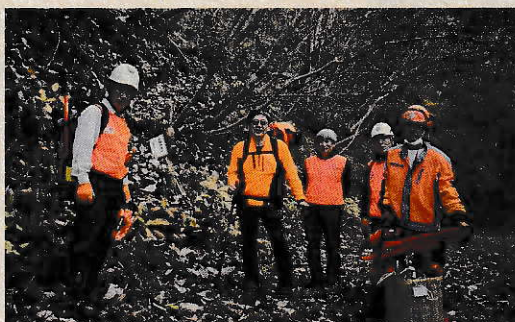


B班と機械班

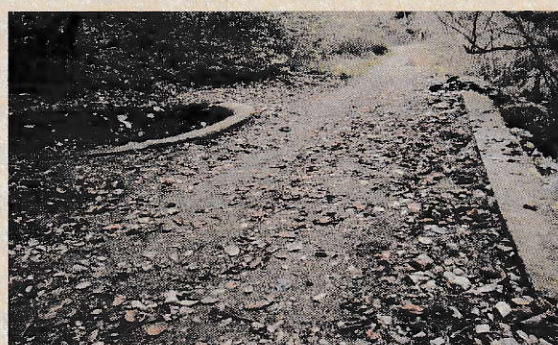
急斜面での林床整備(B班)



ザリクボ右岸作業道整備(D班)



C班エリアに入る機械作業班のメンバー



四の沢復旧

新型コロナウイルス全国感染者が一日で3,000人を超す重大な局面の中、ギリギリまで実施すべきかどうか？悩みました。体調不良、基礎疾患の方は参加しない、会食の禁止などガイドラインを設け慎重に実施した。

作業は先月同様 201 号小班の間伐作業や、ザリクボ右岸作業道の整備に取り組んだ。また1月の定例作業は、新型コロナウイルス緊急事態宣言が出たため残念ながら中止とした。



# 私と高尾の森づくりの会

創立 20 周年記念特集として 2001 年立ち上げから現在まで  
会員として在籍されている方が 15 名います。今回 6 名の方に投稿頂きました。  
この寄稿は創立 20 周年記念誌へも掲載の予定です。

創立 20 周年記念投稿

池谷キワ子

日本山岳会  
「高尾の森づくりの会」  
20 周年おめでとございます



早くも咲いていました。2020.12

1986 年の奥多摩広範囲における大雪害のあと、雨後のタケノコのように森林ボランティアグループが産声をあげました。災害を受けた上に林業不況で手入れを放置されて荒廃した森林を、見放すわけにはいかないと市民が立ち上がったのです。高尾の森づくりの会もその一つで、林野庁の知り合いがメンバーだった縁で集まりに加わりました。なにかを立ち上げるときの、結集して事を運ぶ熱気は楽しいことです。最初の頃は私も、我が家の林業は後回しにしてせつせと小下沢に出かけたものでした。

でもそのうち我が林業にかかりっきりになり、高尾の森 20 年のほとんどは外野からの応援で、大勢の集客力のある活動をすごいなと思って目を見張るだけの幽霊会員になってしまっていました。人を拒絶するほどの高山に、集団の力で登攀を成し遂げる山岳会ならではの組織力と機動力のある山造りにただ感心していたのでした。

忘れられないのは高尾の森に枝打ちする現場が少ないからと、我が家のヒノキ林 13 年生ほどに 2004 年から 10 年にわたって、高尾の森有志のかたが枝打ちに出向いてくれたことです。河西、龍、白井、石井、今藤、笹原、船木、会田、仲、小日向、三葉、斎藤、横川、中島、堤、谷亀、阿部、田代さんたちとマネージャー役の合谷さんでした。

あきる野市養沢の枝打ち現場は、私の実家からまた車で行く遠い林地で、その都度、枝打ち梯子を林地まで担ぎ上げ、4 メートルまで打ち上げるのです。枝打ちは秋から冬、木が水を揚げない時期だけですし、月に一回の作業で、毎回 10 名ほど。奥地の寒い日陰山だったときは、お弁当を食べているうちに歯がガチガチと震えだし、すぐ作業を始めずにはいられませんでした。それでも落とした枝にルリビタキが虫をついばみに来たり、フユイチゴの赤い宝石に目を奪われもしました。ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。今、花が咲き実のなる木々が育って、高尾の森を彩り豊かにしているのですね。

林業経営者協会婦人部の先輩である池谷さん所有の養沢の山では以前より『林土戸』という名のボランティアを受け入れていて熟練した作業員とメンバーが山づくりに励んでいました。当時はまだ森林ボランティアは少なく草分け的な存在だったと思います。2000 年 5 月のある日、龍さんから森の市に誘いを受け『ボランティアの団体と新たな趣旨の森づくり』を考えているので『林土戸』の様子を見に行きたいとの申し出があり、河西さんも含めて何回か養沢まで足を運んでこられました。龍さんの計画は着実に進んでいて、秋には池谷さんの作業員が日本山岳会の人達に間伐のやり方を指導しています。

年末には翌年 4 月に行われる初めての植樹祭に向けて広葉樹の樹種選びにかりだされ私は『かつら』を提案しました。一般的には水辺に植える木だと言われてきた『かつら』が 20 年を経た今、高尾の林地にしっかりと根づいている事はボランティアの歴史を飾る画期的な成果だと嬉しく思います。

< 蜂トラップ > 4 月の植樹祭も成功裡に終わりこれから先の安全な作業を考えると、蜂の問題は避けて通れません。私は林土戸で既に蜂トラップの経験があったの

創立 20 周年記念投稿 2

合谷周子

高尾の森づくりの会  
発足に向けて



で「お手伝いします」と手をあげたのです。取り付けには各班長さんに協力をお願いしましたが、いざ回収する段になると多くの草木が伸びていたため様子が一変していました。それでなかなか設置した場所を見出せず非常に難儀しました。

しかし、それ以上に大変だったのはようやく回収したトラップが強烈な異臭を放っていたので後始末に苦勞した事です。幸いにも調査に熱心な白井さんが助け舟をだしてくださり蜂の種類や数など協力しながらできたことに感謝しています。この間最も印象的だったのは、腐りかけたリンゴをトラップに入れて取り付けたらすぐに女王蜂が入ってきたことで、越冬から目覚めてよほど空腹だったのでしょう。これは蜂に対する心理作戦の勝利なのかなと思っています。

シモバシラザリクボ右岸にて(1月)



創立20周年記念投稿3

辻川光雄

## 「私と高尾の森づくりの会」

私が高尾の森づくりの会に参加することになったきっかけは、小泉武栄東京学芸大学教授(当時)が書かれた「山の自然学」(岩波新書1998年発行)を読んだことです。この本の「あとがきにかえて」の中で、日本山岳会自然保護委員会のもとで開催されている「山の自然学講座」が紹介されていました。登山が好きで、自然環境保護にも関心があったので、この講座に申し込み、小泉先生他の専門家の方々とともに山に出かけての自然観察や教室での講義に参加するようになりました。

その中で、故河西瑛一郎さんたちが中心になって、高尾での森づくりを行う活動を立ちあげられるという話を伺い、単に自然環境に関する知識を豊かにするばかりでなく、いささかでも実際に環境保全の役に立つような活動をしたいという動機でこの会に加わらせていただくことになりました。

2001年1月13日に初めて、道具小屋などもまだないベースからザリクボの急な登山道を登って植栽地に入り、林道下の区画を担当しました。足元の悪い急斜面で、慣れないクワやノコ・ナタをふるっておっかなびっくりで、森林管理署の方々の指導を得ながら、植樹祭に向けて地ごしらえなどを行いました。雪の中での作業もありましたが、なんとか地ごしらえや道づくりを終え、4月に初めての植樹祭を迎えました。数種類の樹種を植えたと思いますが、石のゴロゴロした厳しい環境だったこともあり、無事に生育したのはホオノキだけです。初年度植栽地の横を通るたびによく頑張ったねと言ってやりたくなります。

最近はなかなか活動に参加できていませんが、これからもできるだけ続けていきたいと思っています。

創立20周年記念投稿4

西村智磨子

## 高尾雑感

12月の定例業日、D班リーダーから次のような提案があった。「昼食後、船木尾根を登り、初年度植栽地に行き、ケヤキ坂を下ってベースに戻りたい」と。

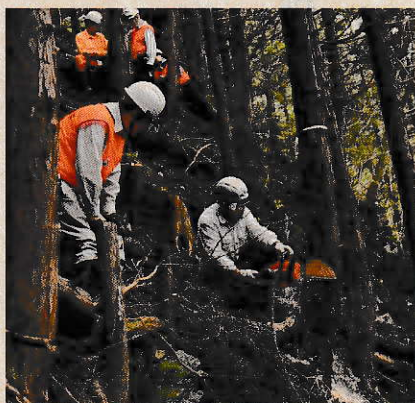
午前中の作業にタツプリと汗を流し、昼食後、船木尾根から上の横道に登りあげる。船木尾根の道は、斜度もきつく急な登り上げであった。途中、何本か、ケヤキ坂植栽地に道を放ち、上の横道に辿り着く。ここから、初年度植栽地までは、ほんの少しの歩きだ。西村にとっては、何年ぶりかでの訪れである。

初年度植栽地との出会いは、20数年前のこと、ツタや、ツルに押しつぶされた単なる藪沢でしかなかった場所だった。

カツラの木が育ち、サクラの木が育ち、ホウの木が育ち、ハンノキが、サワグルミが……高い木に育っている。背筋を伸ばして見上げる。何一つ知らなかった素人の集まりが、「峰尾さん」と言う指導者を得て、藪を刈り払い、巻き落とし作業をして整地をした。木を植えたいと、大車輪の歯車を回転させ植樹祭を迎えたことが蘇る。心を寄せ合った楽しい一時であった。道ばたに寄せた石一つ、刻んだ道一本。どれ一つをとっても、参加者全員が力を合せ、汗を流してできたもの。これからも気を引き締め歩まねばと、感慨にふけりながらベースに戻った。



# チェーンソー研修の 起源 皆川恵男



私が高尾の森づくりに加わったのは、会が実際に活動を開始した最初の作業日、2001年1月13日（第2土曜日）からである。その日は、小下沢林道には前日来の雪が積もり、ベースまで入るのに相当難儀をした上、植栽地まで積雪と闘いながらたどり着き、道づくり班と地拵え班に分かれ作業をした。私の道づくり班はある程度作業はできたが、地拵え班は吹き溜まった雪と大変な悪戦苦闘をした由であった。これが「高尾の森づくり元年」の幕開けの光景である。

発足以来21年、私がこの会で深く関与したのは森づくりに動力機械を導入することだった。当初、この森づくりに、動力機械を持ち込んでの作業は危険が伴うものとして、地主である森林管理署が使用を認めない方針だったが、会員が森林作業は素人の上、高齢で体力的にも峠を越えた人が多く、何をやるにしても時間がかかり非能率的でしかも疲労が激しい。こうした実情を根気よく訴え、2003年には、「公的な技術講習を習得することを条件」に、営林作業にチェーンソーやエンジン刈払機の使用が承認されることになった。

これを受けて私は、2003年8月に「高尾の森づくりの会チェーンソークラブ」を立ち上げ、クラブ員6名をもって研修を開始した。2003年9月27日のことである。

爾来13年にわたって、師匠峯尾春雄さんの指導を得て研修会を継続、森林作業に動力機械の活用とその技術の習熟に努め、約60名の研修生を出した。しかも、この間に徹底した安全教育の学習で、動力機械による人身事故は一件も起こさなかった。このことは、私の最も誇りするところである。

2017年、年齢的に限界を感じ、後輩にバトンタッチしたが、動力機械の有効活用と輝かしい無事故の伝統を今後も受け継いでほしい。老先人の願いである。

創立20周年おめでとうございます。

活動に参加しなくなってから数年以上経ちますが、設立当初から10年くらい、月2回のペースで高尾に嬉々として通った時のことを今でもとても懐かしく思い出します。日本山岳会自然保護委員会の知人から初代会長の故河西氏らが高尾で森づくりをやろうとしていると耳にしました。もともと山歩きは好きだったのですが、ただ、山に登るというのではなく、森と人々のくらしのかかわりに興味があり、荒れた杉林をもとの混合林に戻すという趣旨に大いに賛同して参加した次第です。

2001年4月に第1回植樹祭をやることになり、私はその標識を担当しました。印象に残っているのは「高尾の森づくり事業」の看板を小下沢のベースに設置したことです。当時、印刷技術もなく、予算もなく、手作り、手書きで作りました。その数年後には、立派な新しい看板ができたのでその初代看板は第1回植栽地まで運び、そこに設置し直しました。もし今もあるのならもう一度訪ねてみたいです。

私のもう一つの活動は道造りでした。定例作業とは別に道造り班として10名前後が、小下沢から景信山周辺をくまなく歩き、植樹祭に向けて新たな道造りと整備をしました。仲間と一緒に流した汗と、何もなかったところに道ができる達成感、作業が終わって飲むビールのうまさは忘れられません。私の人生で最も楽しく充実していた時でした。

私は現在、森林フォーラムという別の会のお世話をさせていただきながら、これからも森と人々の暮らしを見つめていきたいと思っております。高尾の森づくりの会の益々のご発展をお祈り致します。

# 私の 最も楽しく、 充実していた時 山本信之





# チェーンソー研修に関して

大塚哲生

当会では安全に留意して機械作業を行って頂けるように、チェーンソーと刈払い機の研修を行っています。また、チェーンソー研修には、現在以下の3つのメニューがあります。

- ① 新規受講者向け特別研修(3日間コース)
- ② 過去に資格を取得された方向け補講  
(本来、半日コース)
- ③ 機械作業班による作業実践講習

先般、9/26～27に①の2日分を行いました。10/24に関しては、①の3日目研修(参加者5名)に加え、会員の皆様の強い要望に後押しされ、②(参加者11名)同時開催致しました。10/24は、急な応募にもかかわらず多数の方にご参加頂き、午後は板当てにて実践研修を行いました。幸いにもいずれの開催日も天候に恵まれ、何とか無事に開催出来ました。これもひとえに、お忙しいところ、ご参加・ご協力頂きました皆様のおかげと、感謝申し上げます。また当日は誰もが、



森林ボランティアを心から好きという様な、良い顔をされていて感銘を受けました。

今後、①の受講者と②受講の希望者は、③に参加頂き、チェーンソー作業のスキルアップを行って下さい。②に関しては、来年6月末までにもう一回、開催する予定です。まだ補講を受講されていない有資格者の参加をお待ちしております。

## 研修会参加報告

### いずれは私が父の代わりに

上尾 奈津子



このたび、講習会に参加した理由は、私の実家が山間にあり、いずれは私が父の代わりに庭や木の手入れをしていきたいと考え、チェーンソーで木を倒す方法を学びたかったためです。実施研修では、チェーンソーを扱うことに夢中になりすぎてしまい、行動に注意がいかず(退路方向の確保不足や伐倒方向に体をいれてしまうなど)、なかなか座学でならった通りにできませんでした。また、受講前はチェーンソーだけで木を切っていたこともあり、実践を通して、くさびやヨキ、ロープを駆使することが大事なのだと実感しました。

冷静に周囲を確認する判断力、チェーンソーで伐倒方向を定める技術、くさびで調整する技術など慣れるまでには相当時間がかかりそうです。そのため、まずは、現場でもたつかないように、チェーンソー・くさび・ヨキ・手鋸・鉋などの道具の扱い方をしっかり体に覚えさせて、冷静に扱えるようになることを当面の目標として練習していきたいと思います！

### この実習は有難かった

仲 洋二

10月24日(土)にチェーンソー特別教育の作業実践講習に参加しました。平成24年の夏に日の出町で伐木等(大径木等)の講習を受けただけで実際に活かしては来ませんでした。これまで手鋸で木を切ることに魅かれて、会でチェーンソーに向き合うのを後回しにしていました。

今回、私が会での特別教育を受けようと思ったのは、一つは、昨年の会の活動域での台風禍(倒木・流木)処理にその威力を実感したこと。もう一つは、物づくり・小屋管理班でチェーンソー作業をする人材の参加が少なくなり、玉切り、製材作業に滞りを感じたことです。今回の講習では、しっかりと点検、整備の実習をさせてもらいました。この実習は有難かったです。

板当てでの伐木実習では、ソーの切れ味が抜群で、いい加減な切込みはあっという間に不出来の結果となりました。明瞭な切込みマークと途中チェックの実行が必要でした。後は慣れることが残っています。準備・指導された方々に感謝しています。



1月8日～2月7日まで  
2度目の緊急事態宣言が出された。  
3名の方々に自粛生活を投稿頂きました。

# 私のステイホーム

## 孤独なラジオ体操

松田 昭郎

コロナの感染対策で「ステイホーム」が呼びかけられ糖尿病の持病を抱えている私は、とっさにマズイ!と思った。森林ボランティアの山での作業は持病の運動療法として私の大切な「生命維持装置」であった。時を同じくして森林ボランティアの活動は休止になるところが相次ぎ、「高尾の森」も感染拡大の都心部からの参加はしにくかった。地元板橋区では公園で毎日行われていたラジオ体操会の参加者が増え、行き場のない高齢者が「密集」した。私は家の前の誰もいない小さな公園に移り毎朝「孤独の体操」に励んだ。午前中は家の周辺を2～3時間歩きまわって運動量を確保したが「怪しげな徘徊老人」と映らないか気になった。

このころ、仕事を辞めたことを知った友人たちから、庭の立ち木の枝払いや草刈りなどの相談が相次いだ。中には庭のビワの実を目当てに夜な夜な騒ぐハクビシン退治の相談もあり首尾よく1頭が捕まり騒ぎは収まった。一方で栃木・奥鬼怒の区の森を整備するため編成された森林ボランティアの活動もバス移動や民泊の問題などで休止。代わりに区内の公園や苗圃の枯損木の整理などに活動が向けられ、振り返れば何やこれやと毎月忙しく過ぎてしまった。

新型コロナウイルスの得体も知れず、防御の決め手もない今、終戦後の極めて不衛生な環境下で多くの伝染病を恐れながら育ち、そこで教えられた手洗いやウガイにマスク、人前で大騒ぎしない・人前で咳やクシャミをしないなど、われわれの世代にとっては当たり前の衛生観念が「新たな生活」というのも皮肉な歴史の繰り返しである。孤独なラジオ体操はいまでも毎日つづいている。最近は一匹のノラ猫と去年生まれた1羽のカラスが傍に来て不思議そうに見守ってくれている。

彼らはどう思っているのだろう……ちょっと恥ずかしい気がする。



## 高尾で活動できる健康を維持

青木 亨

コロナ禍で外出自粛要請が出たことで、テレワークによる在宅勤務の人が多くなり、ステイホームでの日常生活の在り様の変化に関心が高まっているように思います。私の場合は古希を過ぎて仕事を辞めて以降、外出する機会が減ってステイホームそのものの日々です。

まずは健康づくりとして、朝のウォーキングを原則毎日行っています。近くの浅川の土手上8kmを速足で歩きます。その時のタイムと歩数を記録し、体調を確認するようにしています。また、近場の畑で野菜作りをやり、収穫の楽しさを味わっていますが、それとともに畑仕事を通して健康づくりに役立っていると思っています。

家の中ではPCに向かい合っていることが多く、メール、ニュースや情報の拾い読み、百科事典代わり、ネット販売品の注文、写真、ウォーキング、ゴルフ、野菜作りの状況の記録等雑多なことをやっています。ただ、新しい技術、手法に対応しきれず、四苦八苦です。

他には小説中心の読書と数独（ナンプレ）をやっています。読書は一時期、津本陽、藤沢周平、佐伯泰英、上田秀人等の時代物、現代物では内田康夫、東野圭吾等、古本屋で文庫本を買い集めて読み耽りました。一渡り読み終えてからは気まぐれで選んだ本を時々読んでいます。数独は知的(?)パズルゲームとして毎日のように楽しんでいます。気になっている注意力、集中力の低下を少しでも抑えたいという思いもあります。ネット上で楽しむことが出来ますが、私は目の疲労を考えて雑誌を利用しています。充実感は今一つですが、家に閉じこもっているだけでなく、近場でアウトドア行動もでき、高尾で活動できるだけの健康を維持できているので、まずは良としています。

### 新入会員紹介

吉田眞樹です



### 京王親子スクールから森づくりの会へ

この度B班に所属させていただくことになりました吉田です。宜しくお願い致します。

私と会の関係は、10年以上前に親子森林体験スクールに子供と一緒に参加したことから始まります。虫を見る会にも寝袋を持って参加もしました

が子供も大きくなり久しく足が遠のいていました。2019年に夫婦で再訪した時、当時お世話になった横川さんにお会いし、お元気で活動されていることに驚きました。自分も健康で活動したいと思い至りました。まだ微力で戦力にはなりませんが、どうぞ宜しくお願い致します。



## 二人で ベランダの補修！

安藤 幸彦

連日TVを点ければ、コロナの報道のない日はなく、マスク着用、手洗いの励行、3蜜回避等と同時に、不要不急な外出は控えるようにと注意を促す。私自身の行動を顧みると不要不急でない外出などないので自然、我が家でのステイホームとなる。

家に居れば当然、濃厚接触者は妻になる。今更に互いに顔を見合わせて何かするわけではない。喧嘩をするのが落ちである。それではつまらないので、二人同じ方向を向くことにする。即ち、共通の目標を持つことにした。(その目標は、何の価値などなくてもよい。平穏な日が続けば)それで我が家のベランダが老朽化し、あちこち傷んできたので、このベランダの修繕を共通の目標にした。

取り敢えず、ベランダの板を一部剥がし、土台の傷んでいる所を確認、その結果土台の傷みは一部なので、協議の結果全面張替えをすることにした。早速材を見積もとると300 x 8.5 x 4cmの板が37枚、塗料も約3L必要となる。そこで、役割分担し、資材の購入は一緒に、材の加工は私が、塗装は妻が請け負うこととした。費用負担は私の小遣いの範囲を超えるので、妻に負担をお願いした。

瑞穂町のジョイフル本田に3度通い、資材を購入。塗装は谷亀さんから教わった方法を妻に伝授し、裏表の2度塗りを指示、私はベランダ剥がしと、土台の一部修理を行い、塗装の乾いた板から整形して順次打ち付けていった。この間の約一ヶ月は少しずつ出来上がっていくベランダを見ながら、お互い協力的な関係で日々を過ごすことが出来た。

この先も、何か新しい目標を作って同じ方向を向くようにすれば、ステイホームが続く毎日でも平穏無事な生活が待っていると思う。その目標を何にするか今、悩んでいる。早くしないと不穏な空気が漂い始めるかもしれないと。



## ◆会報誌設置

山崎勇さんのご尽力で、599 ミュージアムと高尾ビジターセンターに「会報誌」と「入会への御誘い」パンフレットを置いていただける事になりました。

## ◆原稿及び編集委員募集中！

今月号でも取り上げましたが、創立 20 周年記念特集「私と高尾の森づくりの会」又は「20 年の想い出」のテーマで6名の方々より投稿頂きました。この原稿は20周年記念誌にも掲載させていただく予定です。会員の皆さんも是非投稿していただきたくご案内いたします。文字数は700文字で提出方法はワードでお願いします。

提出先: sxyqw679@yahoo.co.jp (松川宛て)

なお記念誌編集委員を募集していますのでご協力お願いいたします。

## ◆展示・映写会応援依頼

3月27日(土)から4月4日(日)まで599 ミュージアムにて高尾の森づくりの会のPR活動を行います。山崎さんから動物カメラ映像の解説、活動パネル、横川コレクション、木工作品等の展示。また会報誌、入会への御誘いパンフの配布を行います。

お時間のある方は応援お願いします。連絡先は松川までお願いします。ただ新型コロナウイルス感染のため中止になるかも知れません。あらかじめご了承願います。



## 「高尾の森」通信

は、本号をもって **80 号** となりました。

高尾の森づくりの会の会報である、この通信は2001年2月から発行されています。初号の編集者は、今も現役会員の西村智磨子さんでした。この会報を節目となる今回の80号まで続けてこられた歴代の編集者のご努力に、あらためて感謝申し上げます。また、27号(2007年8月)から法人会員であるコニカミノルタさんからカラー印刷についての全面的な協力をいただいています。

感謝の一言です。

松川征夫



## 活動記録

11/14	定例作業	59名
11/22	都有林プロジェクト	10名
11/28	チェーンソー作業実践講習	10名
12/12	定例作業	55名：個人会員51名
12/15	上柚木公園作業	7名
12/27	都有林プロジェクト(新型コロナウイルスで中止)	
1/9	定例作業 (新型コロナウイルスで中止)	
1/23	機械作業実践講習 (新型コロナウイルスで中止)	
1/24	都有林プロジェクト(新型コロナウイルスで中止)	

## 活動予定

2/13	定例作業 (新型コロナウイルスで中止)
2/28	都有林プロジェクト
3/13	定例作業
3/28	都有林プロジェクト
3/27~4/4	599ミュージアム展示会
4/10	定例作業
4/25	都有林プロジェクト

## 会員動向

入会：ようこそ 2名

下野武志さん、宮森 泉さん

退会：ありがとうございました 6名

石黒司さん、伊藤由紀子さん、

金子幸子さん、玉田眞一さん

菅野晃博さん、稲田俊生さん

## 2021年度年会費・保険料納入のお願い

封筒内に振込用紙をいれていますのでよろしくお願いします。

## 1. 納入には郵便振替をご利用ください。

同封した払込取扱票にて納入の場合振込み料金は会が負担します。

\*口座記号番号 00160-3-688239

\*加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

## 2. 他の金融機関から振込の場合

\*銀行名 ゆうちょ銀行 019 (ゼロイチキュー) 店

\*当座預金 口座番号 0688239

\*口座名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

## 3. 納入期日

2021年03月23日(火)

3月末に一括してボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、期日までに納入願います。

## 4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1 他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を払込票に記入してください。重複して加入する必要はありません。

注2 従前より機械作業登録をしている方で、今後この登録を継続しない方も、同様にその旨を記入してお知らせください。

## 幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページ参照ください)

## 【11月度：立川女性総合センターにて】

1. 今後の定例作業について
2. 紅葉鑑賞会の中止とその代替案について
3. 12月の忘年会の中止について など

## 【12月度：メールにて】

1. 12月定例作業 など

## 【1月度：オンライン会議にて】

1. 1月の定例作業及び今後の定例作業について
2. 植樹祭延期について
3. 20周年記念誌発行
4. 緊急車両、作業車両利用制限と費用規則の提案など

## 編集後記



●「全国山の日協議会理事長 梶正彦さま」からご寄稿頂きました。単なる登山だけでなく多くの分野で仲間を集め行動を起こす。との方針のようです。当会も何かしらの参加ができればと思います。

●創立20周年記念特集で2001年当初から活躍された会員6名の方々が登場されました。

入会のきっかけや初めての植樹への不安、苦労、工夫、達成感などを肌で感じる事が出来ました。今後も引き続き投稿をお待ちしております。

●昨年の11月東京都環境局の方々がシカの実態把握

のため視察に来場され山崎さんはじめ白井さん等数人で説明をさせていただき、前に進めていくキッカケとなりました。

●新型コロナウイルスで様々な制約を受ける中、緊急事態宣言も医療なお逼迫ということさらに1ヶ月延長されました。ただ皆さんの自粛生活で少しずつ効果が表れつつあると言われる状況になってきました。我々もうしばらくの我慢で済む気がしています。来月の活動は間違いなく展開されることでしょう。

もうしばらくの我慢です。頑張りましょう。

